

～大切なコト、知りたかったコトが楽しく学べる祭典～

「金融教育フェスティバル2006」を開催しました



日本銀行情報サービス局が事務局を務めるマネー情報 知るぽると 金融広報中央委員会は、中立・公正な立場から金融経済情報の提供と金融経済学習の支援を行っています。知るぽるとのぼるとは「入口」や「港」という意味です。HPアドレスは、<http://www.shiruporuto.jp/> です。

昨年十二月二日（土）、冬晴

れの青空の下、一昨年に引き続き「金融教育フェスティバル2006」を開催しました。このイベントの目的は、子どもから大人までの幅広い年齢層を対象に、「おかね」についてのさまざまな知識などを、楽しみながら知ってもらうことを通じて、「金融教育」や金融・経済への関心を高めてもらうことです。場所は、東京ビッグサイト。当日は、小中学生を中心とした子どもたち、保護者、学校の先生、一般の方など、約一〇〇〇人の方々が来場しました。

大教室

「知りたい！ 受けない！
おかねの授業」

七階国際会議場を大教室に見立てて、「知りたい！ 受けない！ おかねの授業」を開催しました。司会・進行役のいとうせいこうさん、PTA代表役の早見優さん、それに生徒役の小中高生が加わって、「おかねについて思っていること、わかったこと」についてディスカッションスタイ

ルの授業を行いました。

一時間目は、池上彰先生による「世の中の仕組みを知って『生きる力』を身につけよう」、二時間目は、荻原博子先生による「あなた自身の経済家計のシミュレーション」でした。

池上先生の授業では、お金が誕生した背景や発展の歴史、世界のお金とその国の社会情勢を分かりやすく解説して頂きました。生徒役の子どもたちは、初めて目にする国のお金やお金にまつわる話に興味津々でした。そして最後に、池上先生は「お金も、人も、信用されることが大切。皆さんも人から信用され、社会に必要な人となってください」とお話しされました。

二時間目の荻原先生の授業では、「子どもが大きくなるのにはお金がかかります。では、い



つたいいくらかかるのでしょうか」という質問が冒頭にあり、身近な生活の中から例を挙げ、お小遣いや教育費などについて、具体的に解説して頂きました。子どもたちは、「そんなにお金がかかるの」と驚きの表情。終わりに荻原先生は、「ご両親が一生懸命働いて得た大切なお金です。皆さんも家族の一員として、そのお金を大切に使うことに協力できないか、考えてみましょう」とお話しされました。

みんなで体験！

おかねの街

「知るぽるとタウン」

六階会場には、おかねの仕組みや大切さが体験できる仮想の街「知るぽるとタウン」を開設しました。タウン内のステージや協力団体による特設ブースなどで繰り広げられる多彩なプログラムは、終始たくさんの参加者でにぎわいました。

(一) 街の機能を模した特設ブース
タウン内の各ブースには、それぞれ銀行、病院、市役所といった街の役割を持たせました。



日銀ブースの模様



各ブースでは体験ゲームなどを通して、参加者に楽しみながら、自然に経済の仕組みやおかねの役割を学んで頂きました。タウン内の日銀ブースを訪れた子どもたちは、小判のレプリカや一億円模擬バックを、重さをかみしめるように持ち上げて、おかねの「重み」や「信用」を実感していました。

また、課題をクリアしながらポイントを集める「おかねスタンプラリー」に参加した子どもたちは、「小学校から高校まで通うと教育費はいくら?」、「二万円を大切に使う方法は?」、「銀行にお金を預けると利子がつ

く理由は?」といった質問に元気に答えたり、出題スタッフに積極的に質問していました。

(2) 集会場(ステージ)

集会場では、「たまごとおかねの紙しばい」(講師・泉美智子さん・子どもの経済教育研究室代表)、「ニーズとウォンツのおこづかいゲーム」(講師・羽田野博子さん・NPO法人マネーストラウト代表)、マネー講談(講師・神田紅さん)、金融犯罪防止マジック(マジシャン・マギー司郎さん)、「お父さんお母さんのための日本経済入門」(講師・土居文明さん・慶應義塾大学経済学部助教授)と、大人にも子どもにもためになる様々なプログラムを随時開催しました。

(3) 金融教育ケーススタディ

(実践事例の報告)

セミナー室では、小学校、中学校、高等学校別に、創意工夫を凝らした金融教育に取り組んでいる先生方が、実践されている授業を紹介されました。

「小学校の部」では、商店街への出店体験を通して、物の大切さ、働く人の気持ち・工夫を学

ぶ実践と、サトイモ栽培と地域の人を招待したイモ煮会の開催を通しておかねの大切さを学ぶ実践、「中学校の部」では、家

計シミュレーションと模擬商談を組み合わせ、経済活動における選択の重要性や可処分所得の意味などに気付かせる実践、伝統工芸(松阪もめん)による商品作りと販売体験による消費学習の実践、「高等学校の部」では、経済ニュース報道などを活用して金融経済学習を行う授業方法の報告、商品研究を通して商品選択における意思決定を擬似体験し、消費生活と意思決定を学ぶ実践について報告されました。

学校関係者や保護者の方々からは、「児童生徒の目線に立った意欲的な実践で興味深かった」、「ぜひ、自分の学校でも取り入れたい」との感想が聞かれ、質問時間終了後も講師に話を聞く熱心な姿も見られました。

(4) ミニセミナー

協力団体による保険の基礎知識、株式投資の基本、お金の賢い使い方に関するミニセミナーも開催され、各セミナー室とも

会場に入りきれない参加者が出るほどの盛況でした。

金融教育フェスティバルを通して

今回のイベントは、「金融教育」、つまり、「おかね」を通して、自立する力や社会とかわる力を培うことを支援する取り組みについて、理解を広げる活動の一つでした。当委員会では、「金融教育」が、学校をはじめ、地域や家庭にも浸透し、更には相互の連携や支援の輪が益々広がることを期待して、今後もさまざまな取り組みを行ってまいります。皆様のご理解とご支援を引き続き宜しく願っています。



金融教育ケーススタディの模様